



別海町立西春別中学校 学校だより 第9号 令和7年11月28日発行 発行責任者 校長 綾野 正巳

閉校記念式典へのご協力ありがとうございました

西春別中学校長 綾野 正巳

11月8日に開催いたしました西春別へき地保育園・西春別小学校・西春別中学校の閉校記念式典には、多くの皆様にご出席いただき、誠にありがとうございました。

地域・保護者の皆様、歴代の卒園児・卒業生・教職員、そして別海町長、別海町議会議員をはじめ、多くの関係者の方々の温かいご支援とご協力により、思い出深い式典を無事に執り行うことができました。また、西春別学校区閉校記念事業協会におかれましては、各事業へのご協力に心より感謝申し上げます。

当日は、保育園児のかわいらしい踊り、小学校児童の元気いっぱいの歌声、中学校生徒の心温まる合唱が会場いっぱいに響き渡り、私たちの心に深い感動を残してくれました。

時代の流れとはいえ、閉校は寂しいものですが、これまで築いてきた絆と歴史は、これからも西春別の宝として受け継がれていくことを願っています。改めて、皆様のご厚情に深く御礼申し上げます。

自分たちとは違う時代を生きていく。その姿が不思議でもあり、頼もしくもある。

昭和の頃、好きなテレビ番組があると、その時間までに用事を済ませ、テレビの前に座り、一字一句聞き逃すまいと集中して画面を見つめました。トイレに行きたくなくてもCMまで我慢して走る。そこには「聞き逃してはいけない」「見逃してはいけない」という強い集中力がありませんでした。



令和の今、テレビ番組は見逃してもネットで視聴できます。早戻しや一時停止もでき、便利な時代になりました。では、授業を受ける子供たちはどうでしょうか。先生や友達の話を真剣に聞かなくても「後でネットで調べれば良い」「AIに聞けば説明してくれる」と思うと、授業での集中力が高まらないのではないかと心配する声があります。



先日、カロリーメイトのCM「いちばんの味方」篇を見て、心に残る場面がありました。受験生がAIに「有機化学の問題を作って」「英語の前置詞の問題を作って」「別の解き方もある？」と尋ねると、すぐに答えが返ってくる。参考書をめくることなく、効率的に学習を進める姿は、まさに新しい学習スタイルです。一方で、父親が「がんばれよ」と声をかけると「がんばってるし」と返され、戸惑いながらAIに「がんばれ以外の励まし方を教えて」と尋ねる場面も印象的でした。（AIは、相談するのが苦手な昭和おやじにとっても、心強い味方になれるのかもしれませんが。詳細はQRコードからご覧いただけます。↓）

学校は、ICTを適切に活用しながら新しい学びを進めるとともに、時代が変わっても揺るがない価値観やモラルを身に付けられるよう努めてまいります。残された4か月間、上西春別中学校との交流を深めながら、保護者の皆さまとともに、子供たちが未来を力強く生き抜くための基盤を育んでいきます。

